

1. 就職環境について

(1) 2024年度(2025年4月入社)就職状況について

2024年度卒者を対象とした大卒者の有効求人倍率は、1.75倍(昨年度1.71倍)で3年連続上昇しました。民間の調査では、昨年度採用予定数に達しなかった企業は6割近くという数字も出ており、将来の若年人口の減少を見据え、企業の採用意欲は全般に高く、この傾向はしばらく続くものと推測されます。秋以降まで採用活動を継続する企業からの求人は昨年より5,300件増加しており、9月以降本学に届いた求人数は13,500件超でした。

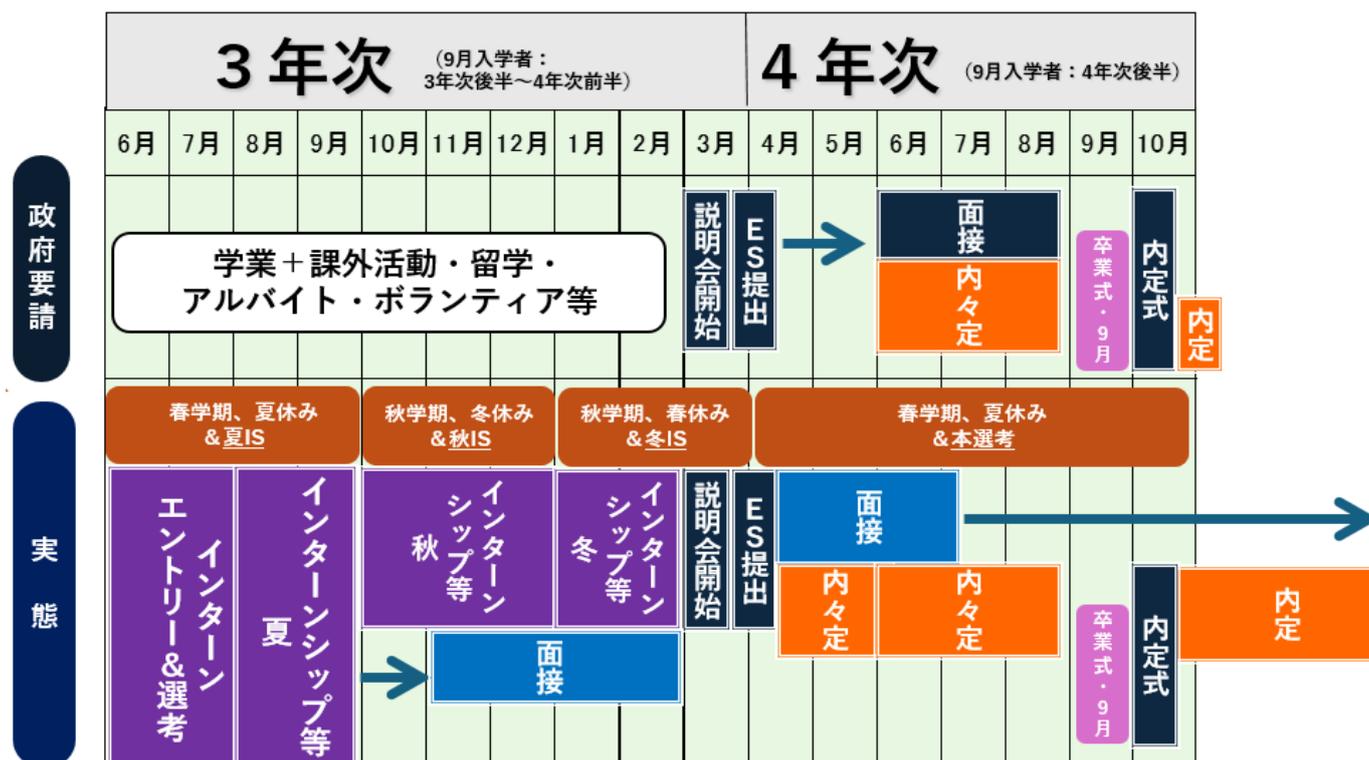
これらは一見学生優位の状況のように見えますが、採用人数を確実に充足させるために企業の採用活動は一層早期化・複雑化する傾向にあります。夏の「インターンシップ」(半日の説明会等を含む)から早期選考に呼ばれ、3年生の秋から年明けにかけて早々に内々定をもらう学生は増加していますが、本学学生が最終的な就職先から内定を得た時期は4年生の6月が最多でした。本命企業の選考が終わらないのに内定先から内定承諾を迫られるなど、採用活動の早期化・長期化による肉体的・心理的負担を覚えた学生も多くあったと感じています。また十分な準備が整わないまま就職活動が始まり、内定をもらってから「最終的な判断がこれでよかったのか」と迷う学生からの相談も増加しています。本格的な活動開始前までに、進路選択において何を重視するのかなど、就職活動の軸をある程度定めておくことが一層肝要になってきています。

なお、進路決定届を提出した学生の進路満足度(就職した学生のうち「進路に満足」「やや満足」と回答した割合)は89%で、例年約90%前後で推移しています。

(2) 2026年度(2026年4月入社)以降の就職活動のスケジュールについて

政府が企業・経済団体等に要請した就活・採用活動日程は前年度と変わらず、広報活動開始が2025年3月1日以降、採用選考活動開始が6月1日以降ですが、3年次の夏から冬にかけてのインターンシップ参加者へのアプローチなど、採用活動の早期化、複線化の傾向にあります。

■一般的な就職活動のスケジュール



① 3年生の春から夏休みにかけて

2023年度から政府がインターンシップの定義を見直し、「5日以上就業体験が含まれるもの」などの一定条件に合致するものだけをインターンシップと呼ぶようになりました。しかし、ここでは正規のインターンシップも半日～1日の会社説明会(通称オープンカンパニー)も、合わせて「インターン等」と呼ぶことにします。

政府要請をしり目に、採用活動は早期化しており、3年生の夏休みを実施するインターン等から早期選考を開始する企業が増えています。人気企業では、このインターン等の参加者を選抜するために、事前にエントリーシート(以下ES)の提出を求めたり、筆記試験や面接を課したりする場合があります。よって、インターン等参加希望者は3年生の4月～6月には企業選びやエントリー、ESの作成などの準備が必要となってきました。

学生によっては、授業や課外活動との両立を負担に感じることも増えると思います。どういう企業のインターン等に参加したいのか、希望する企業のインターン等は実施されるのかなど、早めに情報を集め、計画的に準備を始めることが大切です。

キャリアセンターでは、3年生になる直前の春休みに、就職活動のスケジュールや進め方を案内する「総合就職ガイダンス」を実施しています。是非参加して、大学生後半の過ごし方を考える機会にしてほしいと思います。

② 夏休み中のインターン等について

夏休み中のインターン等は、ほとんどの企業の場合、必ず参加しなければならないものではありません。採用人数に比べ、インターン等に参加できる人数は限られていますので、エントリーしたものの選考に落ちる学生が多数出るのはよくあることです。インターン等に落選しても、採用選考に落ちたわけではありません。インターン等の選考では残念な結果になったものの、同じ企業の採用選考を突破して内々定を得た事例はあります。

インターン等にエントリーしたことで、次のステップ(会社説明会や選考)への案内が来る場合がありますので、気にせずに企業の採用ページなどを参考に、本選考の採用ステップを調べておくといいでしょ。

また、学内では、学生のキャリア観の醸成を目的としてOBOG交流会を実施しています。その他、就職情報会社などが主催する、選考なしで参加できる企業の合同説明会なども実施されます。さまざまな事情でインターン等に参加しなかった・できなかった人は、こういう機会を利用してみるのもよいでしょう。

③ 3年生の秋から冬にかけて

夏休みにインターン等に参加し、早期選考に呼ばれる学生もいます。交流会や企業説明会という名称の場合もありますが、選考のステップの一つと考えておいた方がいでしょう。インターン等に落選してしまった学生にも、エントリーをしていたという実績から案内が来る場合がありますので、興味のある企業の場合は、積極的に参加してみましょう。早く選考を進める企業では、3年生の12月までに内々定を出す場合があります。第一希望の企業以外から内々定をもらい、本命企業の選考が進んでいない場合、対応に困ることもあると思います。企業との接し方で困る場合は、ためらわずにキャリアセンターまでご相談ください。

④ 3年生の年明け～4年生の6月にかけて

各社の本選考がはじまり、最も忙しくなる時期です。2026年3月卒業者の場合、2025年4月1日現在で内々定をもらっている学生は全国平均で61%ほどでした。しかし、最終的な就職先から内定をもらう時期のピークは6月頃になるとみられています。

⑤ 4年生の6月以降

多くの企業が6月までに内々定を出し終えたいと考える一方、採用予定数が充足せず、7月以降も採用活動が長引くと予測している企業も少なくありません。昨年度、採用予定数に達しなかった企業は6割という数字もあり、企業側は採用数の充足に苦慮する状況が続いています。昨年7月以降にキャリアセンターに届いた求人は、年間求人数全体

の43%でした。この中にはいわゆる大手企業も含まれており、通年で採用を行っている企業も増えています。諦めずに活動することも大切です。キャリアセンターでは4年生支援として、ガイダンスを実施するほか、専用サイト「WEBキャリアセンター」で4年生向けの求人の紹介を行っています。6月までの就職が思うように進まなかった人、進路を変更したため就職活動を行ってこなかった人、留学から戻ったばかりでこれから活動をする人など、さまざまな理由で活動を継続する人を支援していきます。

⑥ 9月入学者の就職活動について

就職活動のスケジュールは同じ年度の3月卒業の学生と同じになります。入社時期は9月卒業後すぐの場合と、半年待って次の年度の4月になる場合がありますので、企業ごとに確認が必要です(それ以外の企業が指定する時期の場合もあります)。9月卒業であることを説明すれば不利になることは基本的にありません。また、9月の卒業時までには就職が決まらない場合であっても、3月までは「既卒」ではなく「新卒」として就職活動が可能です。

(3) 就職活動で注意してほしいこと

① 授業との両立について

毎年、就職は決まったものの、出席日数不足や単位数の勘違いなどで、卒業できない学生が数名います。履修計画をしっかりと立てることはもちろんですが、日頃からしっかりと出席をして単位を落とさないように留意することが必要です。

政府は企業に対して、採用活動が学業の妨げにならないよう「授業、試験、留学、教育実習等と採用選考活動が重複しないかあらかじめ学生に確認し、必要に応じて個別的な採用選考日時の変更など必要な対応を明示的に行うこと」と要請しています。学生は企業に選考日程の変更を申し出ることができることを、大学からもガイダンスなどを通じて説明しています。

② オワハラについて

オワハラとは、「就活終われハラスメント」の略で、企業が内定・内々定を出すことと引き換えに、他社の就職活動をやめるように迫ることなどを指しています。内定や内々定の辞退は、学生の権利であり、企業がそれを妨げることはできません。政府はオワハラに関して厳に慎むよう強く要請しています。なお、企業が正式な内定を出せるのは、4年生の10月1日以降です。

- ・ 他社の選考を辞退しないと最終面接を受けさせない
- ・ 他社の就活が物理的にできないよう研修等への参加を強要される
- ・ 内々定の段階で、内定承諾書の提出を求められる
- ・ 内々定辞退を申し出たにもかかわらず、何度も連絡がある

など、困ったことがあれば、キャリアセンターや都道府県労働局や新卒応援ハローワークに相談してください。

【都道府県労働局】

<https://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/shozaiannai/roudoukyoku/index.html>

【新卒応援ハローワーク】

https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-hellowork/kyushokusha/_120809/_119933/tokyo_shinsotsu.html

③ 内々定・内定辞退

内定や内々定の辞退は、学生の権利と書きましたが、複数の内定(内々定)を長く保持し続けることは、当然好ましいことではありません。本命の企業が決まったら、誠意をもって速やかに、辞退の連絡をする必要があります。昨年は複数企業から内定をもらったものの、進路を決めかねて、内定辞退を引き延ばしトラブルになったという相談が複数

ありました。企業からの電話に出ないなど、連絡を絶つことでうやむやにしようとしても本人が明確に内定辞退を申し出ない限り、自然消滅することはありません。そればかりか、大学や指導教員を巻き込んだトラブルに発展してしまう危険性があります。また事前研修を受けた場合の費用の返却を求められるケースもありますので、内定辞退は早めにはっきりと先方に伝えることが大切です。

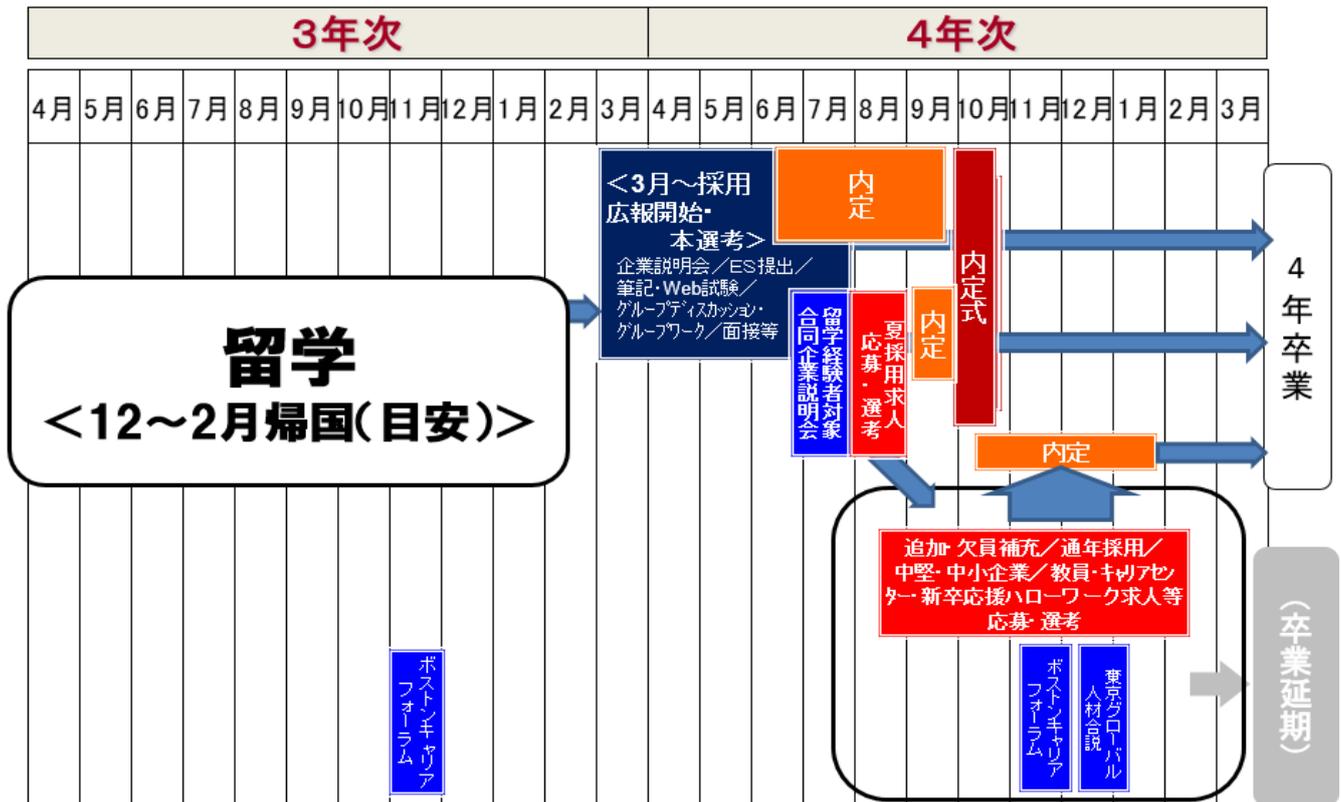
結論をいわずらに引き延ばすのではなく、不安や疑問点は内定先企業に早めに確認し、納得のいく選択をしてほしいと考えます。企業側も就職後のミスマッチを未然に防ぐため、内定者の相談にしっかりと向き合いたいと考えています。双方納得の上での早期の内定辞退はトラブルになることはありません。一人で悩まず、採用担当者へ相談してみましよう。採用担当者に相談しにくい場合はキャリアセンターにも相談してください。

(4) 留学と就職について

最近では留学中の学生を対象とした就職フェアなど、オンラインで採用活動を行っている企業が増え、留学をしながら就職活動を進めることができる機会が多くなってきています。また、通年採用や留学経験者のための就職セミナーなども増えています。留学期間や帰国時期によって、就職活動の仕方は様々ですが、キャリアセンターでは留学希望者向けのガイダンスを複数用意しています。ぜひ参加して最新の情報を確認してほしいと思います。オンラインの個別相談は、留学中でも利用できます。また、留学経験者の就職活動の体験談をまとめた冊子も用意していますので、参考にしてください。

4年間で卒業する学生と、1年在籍を伸ばして就職活動を行う学生の割合は、ここ数年は4:6くらいです。キャリアセンターでは進路の満足度調査をしています。4年で卒業した学生も、卒業を延長した学生も、留学しなかった学生にくらべて進路の満足度が高くなっています。長期留学が採用選考で不利にはなりません。留学したという事実だけで就職活動が有利になるわけではありません。困難な環境に自ら飛び込み、積極的に学びに取り組む姿勢や、そこで得た自己理解や価値観を言語化するなど、成長できたことを明確に伝えたことが結果に結びついたともいえるでしょう。何を学ぶために留学に行くのか、しっかりした目的と計画性をもって留学に挑戦してほしいと思います。

■ <冬帰国> 留学経験者の就職活動スケジュール



*一部、海外からオンラインでできる活動あり。 *帰国前にオンラインで冬インターンに応募→帰国後に参加が可能。 *本選考の開始に間に合う。

important to check with companies regarding this possibility.

In addition, Japanese language an important skill when considering to work in Japan and even foreign companies may require a high language ability. For students that do not have a high level of Japanese language ability, the Career Center runs various seminars in English to provide helpful information to students so that they may plan for their future career.

2. ご家族の接し方について

ご家族の立場から「こんな人生を歩んでほしい」という思いは必ずあると思います。しかし、学生はそれぞれ大学生活などの中から学生自身の価値観を育み、その答えを就職活動において見つけ出そうとしています。

就職活動は、これまでの学生生活とは全く異なり、長期にわたり不安と緊張の連続の環境におかれます。当然のことながらご家族の発言は大きな影響力を持っています。それが学生の中で固まりつつある価値観と相反する場合には、学生の自信を削ぎ、方向性を見失って就職活動を進められなくなることもあり得ます。

「内定」は人生のゴールではありません。就職してからの長い人生をいかに過ごしていくかが大切で、その人生は学生自身が切り拓いていくべきものです。学生自身が自分で考え、選び、自分で納得した進路を見つけるという経験は、その後の人生の選択の場面で大きな支えとなるはずでです。就職活動を通じて、学生は大きく成長します。「困難を取り除く」という形のサポートではなく、その成長過程を「見守る」形のサポートを心がけていただき、最終的には学生自身の決断を尊重していただきたいと思います。

過去に卒業した学生を対象に実施したアンケートから、ご家族との関わりに関する箇所をご紹介します。

① 家族の言動・行動で、「止めてほしい・困ると思ったこと」

- ・「今日はどこ受けるの?」「結果はいつくるの?」と全てのスケジュールを確認したがること
- ・勝手に自分が受ける業界や職種を決められること
- ・周りの学生と比べること
- ・「公務員受けないの?」「家に帰ってこい」としつこく言われたこと
- ・ZOOM面接中に部屋に入ってこられたこと
- ・就活に対するイメージがアップデートされていないこと。時代遅れの誤った情報を言ってきたこと
- ・『大企業＝最も良い就職先』という考え
- ・「就活は上手くいっているか」「内定取れそうか」と心配されたこと。不安を煽らないでほしい

② 家族の言動・行動で、「嬉しく感じたこと、感謝していること」

- ・信頼して何も言われなかったこと
- ・ZOOM面接中に静かにしてくれたこと
- ・最終的に自分が選んだ道を応援してくれたこと
- ・失敗・緊張している時に励ましてくれたこと
- ・「やりたいことができたらいいね」と応援でも批評でもない感想をよく言ってくれたこと
- ・結果はいつ?どこ受けたの?などと聞かれなかったこと
- ・考えを否定せずに一緒に将来を考えてくれたこと
- ・服装の相談に乗ってくれたこと
- ・Vシャツにアイロンをかけてくれたこと

- ・新卒就活が全てではないから、気負い過ぎないでという言葉
- ・卒業までに就職先が決まれば良いとゆったりと構えてくれたこと
- ・応募を悩んでいる企業について、客観的な視点から意見をもらえたこと
- ・社会人目線からのアドバイス

3. キャリアセンターの支援体制

(1) キャリアセンターの支援方針

キャリアセンターでは、以下の方針に基づき支援を行っております。

1. 学生が主体的に自らの進路を考え、行動するための機会と情報を提供し、豊かな人間形成と持続的なキャリア形成を支援する。
2. 多様な学生に配慮し、それぞれの個性や能力を生かして社会に貢献できるよう、ひとりひとりの状況に合わせた支援を行う。

(2) キャリアセンターで受けられるサポート

① 個別相談

キャリアセンター職員及び外部の専門アドバイザーが、学生からの就職や進路についての様々な質問・相談をオンライン・対面で受け付けています(1回 40分。事前予約制)。例年、延べ5,500名の学生が個別相談を利用しています。英語や中国語での相談も可能です。

② 就職支援ガイダンス

就職活動を行う上での基本事項やポイントを伝える「総合就職ガイダンス」をはじめ、「採用試験対策セミナー」や「OBOG交流会」等、就職活動時期に応じた様々なプログラムを年間を通して実施しています。また「公務員」「教員」「留学生」「留学希望者」「技術職」など、対象者別の説明会も開催しています。

③ OB・OG 情報をはじめとした各種情報提供

キャリアセンターでは各企業・団体から提供いただいた卒業生名簿を設置しています。卒業生情報検索用のPC、内定者の就職活動体験報告書、各種書籍、新聞、経済誌等の閲覧も可能です。また、ビズリーチキャンパスとも提携し、OBOG訪問を支援しています。

④ WEB キャリアセンター

求人票やインターンシップの募集など企業からの求人情報のほか、キャリアセンターからのお知らせや個別相談、ガイダンスの申し込みなど、キャリアセンターに関するすべての情報の在校生専用のポータルサイトです。過去に開催されたガイダンスのオンデマンド動画の視聴もできます。

(3) 障がいのある学生、コミュニケーションに困難を抱える学生について

障害者雇用促進法の改正などもあり、民間企業における障がい者雇用率は年々増加しています。特に従業員数の多い大手企業は、採用に熱心です。しかし、障がいの種類や程度、直近の体調、また希望する働き方や企業に求める配慮の度合いなどによって、就職への考え方は人それぞれです。「障がい・心身の不安を抱える方向けの就職ガイダンス」では、障害者手帳を取得するかどうかや、障がいを開示して活動するかどうかなど、基本的な情報やさまざまな就職活動の方法について詳しくご案内します。また、専門の相談員による個別相談も実施しています。

企業の採用選考は面接などコミュニケーションを中心に行われることが多いため、コミュニケーションに困難を感じて

いる学生は対応に苦慮することが多いようです。キャリアセンターでは、コミュニケーションに課題を感じている方向けのコミュニケーション・サポート・プログラムを今年も実施する予定です。こういったプログラムのほか、就職活動を終えた障がい学生によるアドバイス会などのガイダンスを行っています。学生やご家族・保証人からのご相談があれば、障害者手帳の有無にかかわらず専門の担当が支援を行います。まずはキャリアセンターへご相談ください。